

Blowers

vol. 9



めにう ~MENU~

3	学園PBM真鶴学園風雲録 全体リプレイ	
	真鶴レポート	岬当麻
12	Damyan=Kizaki's Road of The Messiah.	Damyan=Kizaki
21	空技廠創立3周年企画	
	スタッフ紹介《その1》	空技廠横浜評議会
25	読者用ページ《三等雑居室》	
28	プロメティアのページ	淵上哲也
29	迷想装甲擲弾症候群	紺野紫楼
33	一等喫煙室	空技廠横浜評議会

※「真鶴学園風雲録」に参加するためには、別売りのルールブック（送料込み200円）が必要です。今回は7/20までにアクションを送って下さい。

※「Mental Ranger」は展開行き詰まりのため、休載しました。

※「PEACE PLESSER MAYA」はイラストレーター音信不通のため、休載しています。

☆ネットゲーム（遊演体／ホビー・データ）参加者の皆様へ

あなたのキャラのリアクションのコピーを一緒に送って下さった場合、本のお代を300円ポッキリ（早い話、切手不要ということ）にします。

「Echoで悪いか！」 by 本居こじ

さて、混乱を極めた8号発行も一月前となり、9号がこの通り出ました。この間、PKOの強行採決（事実上ね）はあるわ、梅雨入りはあるわ、私がまた胃痛を再発させるわで、世の中は大きく移り変わっていったのです。中でも一番大きいのは、我が家に88FRが導入されたことでしょう。今、「大戦略2」を日に2時間はやっています。FRももう古典的な部類に入るのかも知れませんが、何と言っても我が家初のディスク式パソコンですから。

時に、いきなりですが、あの榎原敬之（……だっけ？）の最近でたポスター、あれ気持ちワリーねー。あんなんなら自分の方がよっぽどハンサムだだよ。……ファンには悪いけど、本気でそう思った。あれが、東横線の編成一本（8両）丸ごとの広告占めてるもんなあ。さすがに電車変えましたよ、次の駅で。こないだ見たらチェッカーズのに変わってたけどね。車内では広告ウォッチャーと化す私としては、この「単一広告列車」は拷問以外の何ものでもありませんね。変化がなさ過ぎて。

……なお、今回の遅れは私のワープロのシステムソフトが壊れて、その復旧作業（外字登録）に手間取ったからです。重ね重ねお詫びいたします。

真鶴レポート

坂井法子は、始業式後間もないある夜に、栗田はるなの部屋を訪れた。これ以上はるなに迷惑をかけられない、そう思った彼女の、彼女なりの結論づけのためだ。宇垣に殴られるまで、自分の行動がはるなを追いつめているということに気づいていなかったのだ。

「……何で、イーグルを降りたんですか」

一通りのあいさつめいた会話が済むと、坂井は切り出した。いきなりではるなもはじめ眼を白黒させたが、やがておもむろにため息をつき、椅子の背にもたれた。バネがきしむ。「戦闘機と旅客機の違うところは？」

「……全然違います」

「つまり、そういうこと。私は航空大学校を受けて、いずれは日航の国内線を飛ばしたいの」はるなは淡々と、ただ淡々と語った。「わかった？」

「そんな……はず、ないです」気持ちが高ぶってきているのが、坂井自身にもわかった。ルームメイトの池田がベッドの上から興味本位にのぞき下ろしているが、大して気にならない。「あれだけ空戦で天才的な技を発揮する先輩が、民航だなんて……そんな、ありえません！」

「ありえませんって」はるなは聞き分けのなさに腹が立ちはじめた。「本当なんだから、しょうがないでしょ」

坂井は突然、はるなのもとにひざまづき、手を握って涙ながらに訴えた。

「先輩！お願いします！逃げないで下さい！理由もなしに、私の前から去らないで下さい!!」

「……そんな、勝手な」

はるなは呟き、それから気づいた。あれは中3の頃だったか、姉の榛名が永野伊勢に言い寄られた時もこんな状況ではなかったのだろうか。

「あなたは私の憧れなんです！目標なんです！先輩のいない空なんて……私の飛ぶ意味を、目標を奪わないでください!!」

その刹那、はるなは「勝った」と直感した。なんの事はない、解決法には最善のワンパターンが確立されている。

「坂井さん、あなた、何のために空を飛んでるの」はるなは心を鬼にして——特に労力の要る事ではなかった——冷たく言った。「もし私のために飛んでるのだとしたら、今、この瞬間から自分が飛行機乗りってことを捨てなさい。そんなのが同業者にいるなんて、考えただけでヘドが出るわ。」

「それに、私がちょっとばかり操縦が手早いからって、民航に行っちゃいけない法はないでしょう。そういう考えは、民航のパイロットを馬鹿にしてるとしか思えないわ」

「何のために飛ぶのか」——この一言が、坂井には効いた。それはまた、はるなの一番期待していた、「本命」の弾でもあった。

「……さようなら、先輩。もう、私からあなたの前に現れることはありません……がんばってください……」

坂井は最後の涙を拭いながら、一言残し、部屋を去った。

「ヒュウ！やったね!!」池田が控え目にはやす。「……ちょっとキツかったんでない？」

「あのくらい言わないと」はるなは一月遅れの「エアライン」を取りながら、ベッドを見上げた。「榛姉の二の舞は踏みたかないわよ。……それに、もう一個の方は、彼女は知らない方がいいでしょ、やっぱ？」

「……うん、かもね」

「加藤隼戦闘隊」を口ずさみながら、はるなは再び自分の世界に戻っていった。池田も「an-an」に戻っていった。

女子部主港に錨泊中の宇垣の乗艦、ニミッツ級CV-1「ハイライト」の飛行甲板には男子部から交通研の連絡船で乗り付けてきた者も合わせて、500人近くが集まっていた。格納甲板では在校生によるセッティングが大急ぎで行われている。甲板に在校生有志による模擬店が出ていたり、周囲の艦艇が大概万艦飾にしていたり、まったくのお祭り騒ぎになっていた。

そこへ突然現われたのが伊藤早苗率いるシーハリアー隊である。4機でダイヤモンド編隊を組んでいた彼女たちは海面高度を全速で接近して、「ハイライト」の舷側間隙で急上昇した。ハリアーの可変方向ノズルを「悪用」したアクロバット技である。今日のために、初雁の駆逐艦を代わりに使ってさんざ練習したものだ。……続いて上方開花。ブルーインパルスもどきの塗り分けを施したシーハリアーは、あっという間に上空へ消えた。

「誰だ！あのバカヤローは……」

艦橋で一部始終を見ていた宇垣は、すぐそばにいた部員に尋ねた。

「…えーと。高2の伊藤早苗さんです。一通り終わったらこつちの新歓に参加したいそうです」

「…てーと、あの坂井の知り合いか？」

「そうです」

宇垣は深々と溜息をついた。

「…飛行甲板を空けてやれ。……」

ギリギリ一杯の高度で伊藤たちが下方開花をやらかしたので、宇垣の指示の後半は伝わらなかった。

「…艦尾の連中を少しどかせば、VTOLなんだから下りられるだろう」

宇垣は言い直して、席を立った。格納甲板の様子を見る必要がある。……そこへ、シーハリアーとは違う、鋭いエンジン音が近づいてきた。

「今度は何だ！」階段を下りかけていたのを、駆け足で窓まで戻る。

「わかりません！」無線係が双眼鏡で確認しながら報告する。「……着艦コース上に乗っています……脚も降ろしてる！」

「なんだと！」宇垣はわめき散らした。「すぐにそいつを撃ち落とせ！死人が出る！」

「CV-1護衛各艦艇に緊急司令、着艦コース上の不明機を撃墜せよ。繰り返す、……」

騒ぎが大きくなり始めたころ、その機体は脚を畳み、飛行甲板の真上を轟音と共に突き抜けた。実は、早坂理絵のF-107だった。無線係が識別できないのも無理はない。

「今日は一体何なんだ、アクロバット・デーか？」

宇垣は、髪の毛をクシャクシャにかき回して呻いた。それだけ派手、と言うかどぎつくやられると、正式に予定されていた栗田はるなのF-15四機編隊での8ポイント・ロールなどは、まったく色あせて見えてしまうのだった。

「よーしいいか……飲めない奴もとりあえず缶を持つだけ持て。乾杯だ」

がらんどうの格納甲板に集まった生徒たちには、めいめい350ccの缶ビールが手渡されていた。それでも中学生にはジュースだったのは宇垣なりの保険というべきだろう。艦首側の壁に設えられた舞台からそのさまを一通り眺め回すと、宇垣は生徒会本部から失敬してきたハンドマイクで手短かに開会の辞を済ませた。

「集まった奴には礼を言う。適当にパーッとやろう！飲み過ぎるなよ。じゃ乾杯！」

「…乾…杯！」

ためらいがちにぼつぼつと缶が上がる。しかし、やがて内部は談笑のざわめきに包まれていった。酒を飲めない者、あるいは飲みたくない者はそばにいる飲める者にビールを預け、何箇所かある氷水で満たされたポリバケツから適当にジュースを取っていった。所要所にはシラフの宇垣の手下たちが控え、不慮の事態に備えている。

しかし、いくら念を入れても、「不慮の事態」というものは起こるものだった。

宇垣が一年生たちの中へ入って行って、適当に口をきいて回っている最中に、どこからともなく酒瓶が宇垣めがけて飛んできたのである。彼女が気配を掴んで受け止めたので無

事に済んだが、手伝いを口実に飲み会に紛れ込んでいた在校生は当然のこと、新入生たちも近くにいた者たちは一様に静まりかえった。

宇垣は辺りを見回した。……とある方角に、不適な笑みで挑戦的な視線を投げかける新入生——組章から見て普通科の女子——がいる。彼女は宇垣は一度瓶を確かめた。

「マリエンターラー・クロスターガルテン……ドイツの赤か！いい趣味してるじゃねーか」

在校生たちの恐怖が一層高まる。攻撃されてなお上機嫌のときは、逆に大変危険な状態にあることを意味する。しかし、彼らとしては手出しをしない方が宇垣のためにも良いことも、不文律として知っていた。

「よし、余興だ！」

宇垣はその空になった透明な瓶を、いきなり勢いをつけてオーバースローで放り投げた。中に残っていた赤い滴を散らしながら瓶は一直線に飛び、そして「的」の背中に命中した。

ビールとワインでほろ酔い機嫌の春日千秋が宇垣に向かって瓶を投げたのは、風紀委員の職務とはまったく関係なく、ただ単に個人的な「宣戦布告」としてだった。そうでなければわざわざ宇垣の「新歓コンパ」に顔を出したり、ましてや酒に手を出したりはしない。「予定通り」に宇垣は瓶を受け止めた。とりあえず顔を覚えさせるという計画が達成されたのに満足して、あとは投げ返された時を考えて人込みに紛れていった。

だから背中を鈍くて強いショックが貫いたときには、それこそ心臓が縮み上がる思いがした。……まさか、そんな、ばかな。

「おい、待て！」

床に落ちた瓶が割れる鈍い音とほとんど同時に、怒気をはらんだ声が続く。……万事休す。春日は振り向きざま、懐に吊ってあったベレッタM92Fを抜いて構えた。宇垣は、すぐ後ろに立っていた。背後には大分広めの空間が空いている。みんな宇垣のジェスチャーで避難したのだ。

「……やる気か!?オレは別にそんなつもりじゃなかったが」

彼女も懐からガスガンを抜いた。コルトのガバだ。いよいよ群衆は彼らから遠ざかり、ヤジ馬を決め込んでいた。何人か、要領を心得た3年生たちがどちらが勝つかの賭けを張り始める。

……勝負はあっけなくついた。セーフティを外してスライドを引き、いつでも撃てるようになった宇垣は、脳天をかすめるように狙って一発かましたのだ。それでひるませておいて、彼女は春日の銃を蹴り上げてしまったのである。

「あ！」

「……無事だったからよしとしよ」

安堵の溜息と共に湧き起こる歓声。宇垣は、照れ臭そうに右手を挙げて答えた。

「カズ君、物理部に転部したって？」

「……あの噂のことなら、何も知らないからな、オレは」

菅原の問いかけに、鳩山は過剰反応した。

「内進生の連中がゴチョゴチョやってるのは確かだが、俺は知らん。望遠鏡自作して、星が見たいから転部しただけだしな。……あそこならいいレンズが安く手に入る」

「……そうか。まあいいや。話は変わるけど、放課後になったら艦隊で女子部へ行こう。フォーメーションの研究がやりたい。それに中坊の性格もつかみたいし」

「……いいんじゃないか。対抗戦も近いし」

菅原艦隊の中学生たちはなかなか使える連中だった。はじめはWWⅡ期さながらの古めかしい装備——12.7cm連装砲4基、5連装魚雷発射管1基、ヘッジホッグ発射機2基、爆雷投下軌条2基が主兵装——が不安に思えたが、なかなか機敏で、タイコンデロガ2隻でサポートすれば女子部の小艦隊とはそこそこの戦いを挑める。タイコンデロガのSSMで先制の一撃を加え、その後ギアリングで止めを刺す……そんな戦術がほぼ確立した。そんなある日、女子部へ出張って適当な艦隊をカモに取り、ほどほどの「戦果」をあ

げて男子部に帰港する、その途中。

影山が、来た。彼は3人の仲間を連れていた。

「IFFコード男子部、機数7、うち3機突っ込んできます。残り4機は上空で周回開始。機種判定、攻撃機はF-18、上空のはF-14……個別コードの判定は……影山がいます！F-18！」

菅原の「ハタハタ」のレーダーは、影山たちの上空で待機していた、護衛のF-14四機もキャッチしていた。

「対抗戦の練習かな……まさか実際に攻撃することはないだろう」菅原はそのコース軌跡をレーダースコープで確認しながら、呑気に呟いた。「応戦準備！適当にもてなそう」

「ジクロル・ジフェニル・トリクロルエタン（略称DDT）」上の鳩山の見方は違った。

「菅原！練習にしちゃおかしい！何も言ってこないぞ！」

「あ！F-18、ミサイル発射！各二発、ハーブーンらしいです!!」

鳩山と、各艦のレーダー手の報告とが、ほとんど同時に発せられた。菅原の頭に瞬間血が上る。まっ赤になって指示を下した。

「全艦応戦！ミサイルをハタキ落とせ！」

タイコンデロガのシースパローからギアリングの40mm機銃まで、あらゆる防空火器が撃ち出され、何とかこれは防いだ。ただ一発「DDT」の上構後部に命中したものを除いて。

「F-18、こっちに接近！」

警報は続く。

「砲だけで応戦しろ！」

すぐに3つの機影は視認できるようになった。コースはどれも「DDT」に集中しているようだ。

「メーデー！メーデー！男子部管制、こちら第6独立艦隊、影山たちの編隊から攻撃されている。急いで迎撃機をよこしてくれ！」

鳩山は動きのもたつく無線係からマイクをひったくり、自分で送信した。いきなり銃撃が艦橋を襲う。システム上絶対に内部へ弾は飛び込んでこないが、それでもおっかないことに変わりはない。

「攻撃機、反転してきます」

鳩山は側窓から身を乗りだし、その機体に怒鳴り散らした。“ALL BOATS AWAY”の艦長さながらである。

「来るな！」怒りがそのまま声になったようだ。「来るんじゃない！」無線ではないのだから、相手に伝わるはずもない。「何で俺の艦ばかり来るんだ……！」

更に一斉射。それで、とりあえず攻撃は止んだ。

「……ずいぶん風通しがよくなったじゃないか……」

そう言って、鳩山は自らを嘲笑うかのように、フンと鼻を膨らませた。

「ねえ、有明さん、DC-3の改造できないかなあ」

ふと飛び出した井村の問いに有明みどりは、ぞわりとしたものを感じた。彼女の「まや」を電子情報艦に改造したばかりなのに、今度は何だ。

「……モノにもよるけど」

「あのね、まずターボプロップ・エンジンを載むのよ」

「ふんふん」そのくらいなら誰でもできる。

「与圧化してね、客席減らしてパーつけてね」

「ふんふん」特に大したことはなさそうだ。

「デジタル・コンピューターとレーダーを載せるのよ」

有明の目が点になって、次の瞬間皿になった。

「……どうすんの、そんなもん！」

「空中指揮機にして、はるな先輩に渡すつもり」

「ひええ」

井村はもう一度聞いた。

「できる？」

「できない」

有明はあっさり、そしてきっぱりと答えた。

「そりゃスペース的にムリよ。指揮機にできるようなレーダーでD3に載めるなんてったらE-2並のものが要るし、そしたらバーなんてつけらんない」

「……うーん、そうかあ」井村は投げ出したような声を出した。「うまく行けば一儲けもできると思ったんだけどなー」

「はるな先輩に渡すんなら、いっそ先輩のDC-7をいじっちゃった方が早かない？どっちみち、できないけど」

考えてみれば当然な有明の意見に、井村は計画の練り直しを迫られることになった。

東大鳳はパーシングで単車、男子部射爆場の茂みの中を女子部へ向けて進んでいた。男女対抗戦に備えて陸路の侵攻路を確認したかったのだ。

「戦いは正を以って合し、奇を以って勝つ」—————

彼の信じる孫子の一節である。この数年海路一本だった男子部を迎え撃ってきた女子部には、必ず陸路にスキがあると見たのだ。そして「実戦」でこれを実行するにあたって、万が一のために「待ち伏せ」のできる場所も調べたかった。

アルデンヌの森もかくやという雑草の深い茂みの中を歩いて行くうち、その事件は突発した。あらぬところで茂みが開けたのである。そして、そこでは女子部の90式戦車が手当たり次第に主砲をぶちかましていた。

90mmと120mm。ケンカになるはずがない。

ヤケ撃ちしていた彼女たちの動きが止まった。何故か撃ってはこない。まるで凍ったようだ。

「……………？」

双方にしばしの空白が流れ、そしてやおら一台の90式が発砲した。更にしばらくしてから、思い出したように他の三台も砲撃を始めた。

「うわっお！」

大慌てでバックして、茂みに隠れる。120mm4門の集中砲火が叩き込まれる中、砲塔を打ち抜かれ、吹き飛ばされながらも東は命からがら逃げ帰った。

加越京子はモニターを見ながら呟いた。

「結局何だったの、今の……」

男子部の戦車が現れたのは、彼女たちが「訓練のために」射爆場を例によってムチャ撃ちしていた時だ。彼女たちが危険なので、あまり使われていない（従って雑草の多い）境界線沿いへ追いやられていたのだが、知らないうちに男子部の領域へ入っていたのだった。そこで東のパーシングと出会したのである。

不意のことで両者はみな唾然となっていたが、真っ先に撃ったのは春日千秋だった。

「バカ！何で撃つのか！」事を荒立てたくない加越が叱る。

「ここは女子部です！あれはスパイに違いありません！」

「……全員！目標、あの戦車！」

成り行きでそうなったが、やはり不安になって位置座標を確認してみた。

「……………げ☆」

そこは、見事に男子部の領域だった。

日が経つにつれて男子部、女子部の別なく練習は熱が入るようになっていった。中でも坂井のスカイホーク隊は、かなりガンガンやる方だった。彼女は自前でT-38タロンを購入、これで新入生に空戦の稽古をつけ始めたのである。普通T-38とA-4なら機動性で若干A-4に分があるのだが、そこはそれ、栗田はるなどそこそこの空戦をやりあつた坂井法子のことである。新入生たちはまるっきり相手にならなかった。真鶴に入って初

めて飛行機を飛ばすというものも多いから、それは無理もないのだが、坂井は容赦しなかった。はるなに諭された反動があったのかも知れない。

やがて業を煮やした彼女はA-4、零戦二一型とこちらの機体レベルを落としていった。

これが有明みどり、ひいては風紀委員の判断を困惑させることになるうとは、彼女自身思ってもみなかっただろう。今までは指定の機体よりグレードの高い機体に指向していた彼女の行動が急に逆転したのだから無理もない。ある晩に「何かあった」らしいのは確かだが、それ以後はるなどの接触が全然ないのはどういうわけか。栗田はるなの後継者は坂井ではなく、別にいるのか。

榛名の後継者が永野伊勢であることは確実だった。そのあとも中学出身のものになるだろう。しかし、はるなの後継者はわからない。実はハナから予定がないということ、風紀委員会は知る由もなかった。一般生徒の間でも知っているのは榛名に近い者だけだ。

一方で早坂理絵のように、自分のやりたいように好き勝手に飛び回っているものもいた。対抗戦への練習で今までほど時間は取れなくなっていたが井村真知子に単独飛行の技術をどんどん植えつけていたし、そうでない時も「妙な機体」をどこからか探し出してきては乗り回していたのだ。模型部で所属しているF-100の班でも、「あの子は特別だから」ということでほとんど欠員同様の扱いになっていた。それが早坂自身に苦にならなかったのは、ひとえに彼女の脳天気にも近い明るさゆえだろう。

井村の方は「いい迷惑」と言ってもいい状況にまで行っていた。誰も滑走路軸線上の16ポイント・ロール(16回止めながら機体をぐるりと横に回す)まで教えてくれと言った覚えはないのだが、いつの間にか曲がりなりにもできるようになってしまっていた。ロールが終わると高度がギリギリまで落ちているのが難だったが……。T-4でこれ以上高等な機動をするのはムリ、というところまでアクロバットのフルコースを堪能させられるのであった。

栗田はるなはその日も長門たちの見物付きで、DC-7Cでの単独飛行をやっていた。ダグラス最後のレシプロ旅客機であるこの飛行機は舵の反応も素直で、イーグルとは別の意味で飛ばすのが楽しい機体だった。さすがはダグラス。離陸滑走の段階から、毎度はるなは設計の確かさに感激していた。コースは常に女子部と男子部を結び最短経路だった。これを燃料が尽きるまで往復するのだ。

「そろそろDC-8に移行しようかな?」「んだね。早くジャンボ級のものにも慣れないと」

そんな会話を交わしている最中に、長門が不審な機体をレーダーに捕らえた。

「IFFコードは男子部……迎えかな?それにしちゃ妙に静かだね。確認してくる」

そう言い残して、長門はその機体へ機首を回らせた。……やがて、入電した。

「男子部のF-15がそっちに行ってる。返事はしないよ。……逃げた方がいいね、様子が変だ」彼女は告げたが、ややあって付け足した。「……間に合わないか。あとちょっとでそっちに着く!」

それはF-15C三機から成る編隊だった。全機空対空装備、男子部のマーク以外は何も書き込まれていない。機影が点から飛行機の形を成していく様は、はるなにもすぐ視認できるようになった。正面から来る。

「撃ち落とそうか?」

「待った方がいい!」僚機の霧島の提案を即座に却下したはるなは、眼を凝らした。「やたらに事を荒立てると、かえって面倒!」

F-15Cは長門のF-15Jと一緒に、はるな機の正面から上を飛び越していった。気流の乱れではるな機が大きく揺れる。

「はるな、ごめん!」長門が謝る。

「前言撤回!」はるなは喚いた。「こりゃマジだわ、逃げるからあとよろしく!」

「まかせとき!」

DC-7が無理矢理機首を下げて急降下するのを確認して、霧島と扶桑は編隊を解いた。

イーグル同志3対3の空戦になった。……が、その内一機がうまいこと逃げ回り、追っていた扶桑に言わせれば「ほぼ意図的に」はるな機のみ後ろに出た。ミサイルを撃たせれば絶体絶命。……実際には撃たないのが分かっているだけマシだった。この時期、バカな考えを起こす者が出来ないよう、実弾は教師が厳重に管理するのである。

実戦ならどうか。DC-7にはチャフやフレアなどといった代物は積まれていない。ましてECMなんてものはない。体当たりでも何でもして敵を止めたいところだが、同機種ではそれもかなわない。悲しむべきことに、こちらミサイルは最初から積んでいない。はるなから無線が入る。

「いいよ。こいつは引き受けた！……空中機動だけでぶち墜としてくれる！」

そして、にわかには信じ難いものを目にすることになった。

はるなのDC-7が突如左へ横滑りしたのである。問題のイーグルもそれに追従する。まるで追跡を楽しんでいるかのようだ。フラップを一杯に降ろして、速度をぎりぎりに絞っていた。

「落ちないよ！」

「まだこれから！」はるなの声は案外落ち着いていた。「どおりやあ……！」

DC-7の機首が上を向いた。イーグルの進路へ翼を広げて立ちはだかるかのような格好である。……イーグルは、あわてて上昇に移ろうとした。

「……あ！」

それは、誰が見ても分かるほど完璧な、失速への序曲だった。さお立ちになったイーグルはガクンと機首を下げ、キリモミになって墜落した。低空のことである。回復する余裕は、なかった。夕方にはこれが影山機であったことがわかった。噂が伝わるのは早いもので、翌日までは全校生徒の知るところになった。

「あのヤロ、無抵抗なのをやるたあフテー奴だな」宇垣がいきがる。「ヤキ入れるか」

「そりゃ待った」榛名が聞きとがめた。「多分、それじゃ影山の思う壺だと思う」

「じゃどうする」

「対抗戦が終わるまで待とう。とにかく、適当な機会の来るのをひたすら待つべき」榛名は、海戦術を教わりに来ていた初雁を横目に置きながら、言った。「そうやたらに突いたら、かえって事態を悪くするわ」

「オメーは待つばかりだな」宇垣は苦笑した。

今回のPC及び主要NPC（アンダーライン付き）

高校 男子部 普通科

1年A組 沖田 玲郎 立花 陽明
2年A組 影山 翔 貴志 参 竜野 了
3年F組 加賀 実

理数科

2年H組 沖田 悟 菅原 絵馬 鳩山 平和
3年G組 赤城 広義

女子部 普通科

1年A組 朝比奈 美雪 春日 千明
2年A組 伊藤 早苗 加越 京子 坂井 法子 初雁 つばめ
F組 永野 伊勢
3年D組 栗田 はるな 長門 洋子 扶桑 和子 霧島 宏子
F組 池田 美穂 宇垣 麻美 栗田 榛名

理数科

1年H組 天本 伊織

中学 男子部

1年A組 東 大鳳

女子部

2年A組 有明 みどり 井村 真知子 早坂 理絵 白根 こだま

その他のリアクション

・沖田玲郎

ワンダーフォーゲル部に入部。模型部はMA。持込みのM60E1重機装備でM16小銃装備の班（4名）に配置。

・立花陽明

弁論部に入部。模型部はMS。近眼のため、作戦計画班の連絡要員となる。

・影山翔

その他特記事項なし。

・貴志参

校内の不穏な動向について、個々の関連と意味するところを調査。

・竜野了

その他特記事項なし。

・鳩山平和

その他特記事項なし。

・菅原絵馬

乗艦の対空力の向上を考えたが、これ以上は不可能であるため断念。

・朝比奈美雪

坂井に猛訓練をつけられる傍らで、MAの戦車などを相手に対地攻撃練習を行なう。

・春日千明

クーデターに関する情報集めを開始。一般委員ということでかなり壁は厚かったが、どうやら縮小機を使うらしいということまではわかった。（他のキャラは知りません）

・伊藤早苗

バレー部から生徒会へ転部。経験を買われて基地隊のF-4E班（8機）の隊長に任命。カナダ人、ジェシ・ヘンリエタ（16）と同室になる。ホーネットのパイロット。

・加越京子

その他特記事項なし。

・坂井法子

A-4よりも零式二一型に乗る時間の方がはるかに長くなる。

・初雁つばめ

栗田榛名について海戦術の修業をつむ。

・天本伊織

とにかく挨拶回り。クラスメートから有名人まで、手あたり次第に世間話をして回る。

・東大鳳

空手道部に入部。模型部はM A。M 2 6 パーシング戦車（中1のみ）の班に配置。

・有明みどり

その他特記事項なし。

・井村真知子

その他特記事項なし。

・早坂理絵

その他特記事項なし。

・白根こだま

委員会内名称「オーバーロード作戦」のため、坂井監視網の規模が狭められた。この作戦について白根自身は何も聞かされていない。

校長から

そろそろ水増しキャラは要らなくなってきたかな？……あ、そうそう、調査書は毎回書いてね。面倒でも。運の数値の変動があるから。あと、コマンドもちゃんとかけてね。

で次回は4月後半。行事は特にありません。ただもうひたすら対抗戦の練習と、お勉強。がんばってね。

……井村さん、生徒会選挙、投票したそうですが、こっちにその記録はありません。

勝本さん、私信の最後にあったあのアイデア、そーいうノリは大好き。まあ、人格崩壊を起こさない程度に頑張ってください。

今回はPC数が増えたこともあって、リプレイがおっそろしく増えました。でもまだ、ほとんどのアクションが自己完結型に近いから、そのものになってしまっていますね。まあやたらにこっちの思う通りのものを期待してもしようがないけどね……。ああ、林さん、はるながイーグルを降りた「もう一つの理由」には、マイナーチェンジが加わりました。こないだ話したのは、規模がちょっと違いますのでご了承の程を。

そうそう、ルールブックに改訂版ができました。クラブのリストに男子部の少林寺拳法同好会が追加されて、学園内での風紀委員vs栗田のクラブ関係図なども設定されました。別に旧版のものでも支障はありませんが、ご希望の方は参加時に言って下さい。無料で次号発送時に同封します。

ああ、あと何書こう。ここんとこスランプなのか、真鶴のリプレイすら書くのが辛くなってきてて……申し訳ないけど、ここらで今回はおしまい。

Damyan = Kizaki's

Road of The Messiah

Road №7 “Silent quarrel”

Written by Damyan=Kizaki

Prologue

歯車の耳障りな音が、ウサギ小屋のようにせまい機関室の壁に響く。

ガタン、ガチャ、ガタン、ガチャ、ガタン、ガチャ、ガタン、ガチャ、ガタン、ガチャ、
....

アスファルトを蹴る、ブーツヒールの声。

古ぼけた標識には、 ↑死 と殴り書き。

サイバーな道を歩くのは、蒸気を身にまとった、レイディ・インフォメーション。

鉄臭い道を、雪崩のように埋めつくす。

「超高速差分機関・試作2号・蒸気圧・回転数共にオール・グリーンです」

パトロンのは走り終わった直後のガーニーのように温かい。

オイルの雨が、電腦の街に降り注ぐ。

蒸気の龍が、怒り狂って叫び声をあげる。

夜 Darkness.

ずぶ濡れのレイディ達。

と、黒塗りのミスターが、傘を差し出した。

彼らは歩き出す。

蒸気と狂気の空間を貫く、白い毛細血管の中を、すさまじいスピードで流れる。

そして、彼らに光があった。

「チーフ！ 応答がありました、確認します・・・やった、ウエストコーストだ！」

「よーし、蒸気映像に転写してみて」

「日崎君、やったな！」

「いえ・・・そんな、俺も実現するとは思ってもみませんでしたよ、アルフレッドさん」

「ははっ、ダミーの奴、鼻で笑ってたかんなー、後で思い知らせてやろうか」

「あたしゃ、あの人にはかないっこないと思いますがね」

「言いえてミヨー」

傘を持った黒い男は言った。

“よかろう、私も力だけの争いにはうんざりしていた所だ。・・・君達のレジスタンス同盟主催特別会議に参加させてもらう。そのかわり、日時・場所はこちらで指定させてもらう、明後日の午前2時ジャスト。大ナポレオン=オルディナトゥールの領域内の“バスターニュ”、懲役マトリックス内だ。腕のいいダイバーを用意したまえ。

1 8 9 3 0 5 1 5 2 3 2 4 0 6 0 6”

そして、男は去った。

俺は起きざま、ヘヴィ級のストレートをモロに食らって、KOされてしまった。なんせ、俺がつかれて寝てる間に、日崎の奴がウソぶいていたことが実現してしまったのだ。なかなか痛えコトしてくれるぜ、全く……

俺は、来たるべく“銀の船”への攻撃に備え、同盟 結局“The Blave of Xeus”が正式名となり、パンドラの箱を暗示する“BOX”が通称となった 内で同盟員全員参加の準備会議を開くことにしていたが、そこにあの野郎が口出ししてきたのだ。そして……

「鬼崎リーダー、マトリックスでやるんなら、全員参加は無理です。マディさんは絶対、として……リーダーと誰かダイバー1～2人が限度です」

「ああ、わかってんよ……ジェドの奴には言っといたから、おめーは南船の奴と一緒にサポート頼む」

「了解、リーダー」

全く、コンピューターの電腦空間（サイバースペース）で会談だと……ウエストコーストの奴、ホントヘヴィなこと考えてくれるよ……俺は、脳に端末くっつけてないので、機関の外部端末、要するにキーボードで奴と話す訳か。つたくめんどっちーよなー、ホント。「何だったら、あたしが打ち込みましょうか？うしろで鬼崎リーダーがセリフを言って下せれば、あたしがやりますよ」

「ん、頼むぜ新尾崎」

マディが言うに、“バスターニュー”は、一般の空間とは離れた所に維持されていて、エイリアンのクソ野郎も目を付けていない所なんだそうだ。ま、途中で奴らに邪魔されることはねえってコトか。しかもあさってつと、エイリアンの“宗教”で言うトコの“大聖日”、イースターみたいな日で、そいつに染められちまった国～日本とスイスがその代表らしい～に、特にエイリアン共の眼からは、ほぼ確実に逃れられる、ということだ。なんかユダヤ教みてえだな。ま、いいや。奴らの神のコトなんぞ、国家予算もらっても覚える気はしない。

どこまでも広がる青い空に、ウイスキーのワイルドな味。

俺はボトルを置くと、暖かい土の上に寝っ転がってみた。

波津野じゃ、時空嵐とか言う一大カタストロフが間近に迫っているとかで、ちゃぶ台を派手にひっくり返したような大騒ぎだそうだ。ペンタスのお偉いさんが買い上げた土地に、何かバカでかい塔をおっ立て、“箱”がどうの“時元水晶がどうの”、と必死に走り回ってるらしい。そしてその嵐とやらを迎撃する6月には、全市民が市外かココみたいな異世界に安全のため非難する、と言っている。今でも既に、非難は始まっているらしいが、ココにはペンタス救助6課の堀田とか抜かず野郎が来て“小型逆時空嵐発生装置”とか言うガラクタを置いて帰っただけだ。そのボディビル野郎が言うには、ココにも時空嵐は近づいているらしく、……そういえば、何故か最近、星々の間にオーロラが見えていた。このオーストラリアにだ！そいつは、嵐が接近してる証拠らしく、あの装置は波津野で時空嵐が撃退されるまでの一時しのぎのものらしい。もし嵐が消えなかったら、もちろん波津野を含めた俺達の世界は消滅するし、ここも嵐に喰われちまうそうだ。今、他の異世界でもその対策に追われてるらしいが、大笑いなコトに、ここで大事な時は時空嵐ではなくエイリ

アンとの決着なのだ。嵐はその次……そいつが来ちまえば、この土地はもちろん“銀の船”さえも崩壊しちまうってのに……ホント大笑いだぜ、俺達はよ。今よりここが“安定”していたせいもあるが、何よりもあいつら全員、世界の命運を背負って生きるコトに快感じみたものを覚えちまったのがいけない。そして、俺は“レジスタンス”という名のタチの悪いヤクにラリってる大バカ野郎って訳だ。

「帰んな。ここは、てめえらみたく災害なんぞに騒いでいる野郎の来るトコじゃねえぜ。さっさと帰って母ちゃんとでもヤってな」

俺は奴のケツを蹴っ飛ばして、かくれ家の応接室を出て仲間のところにかけて行った。

そして、空はあの時と同じように、無限の青を空気のキャンバスにたたえている。

俺は昼寝することにした。

そした、ウエストコーストを斬り殺す夢を見て、必要以上に汗をかいた。

II

夜。

氷の死神がケタケタ笑う、地獄の闇。

午前2時前。

英国大使館の連中に見つかったら雷モンの、自家発電の電球の熱い光に照らされた機関室。整備の終わった超速機関は、すでに目覚めてマッハの歯車の歌うクレージーな唄を叫んでいる。

俺は、機関の横にある蒸気映像のディスプレイの前に座り、新尾崎と南船が、マディとジェド、2人の没入（ジャックイン）のサポートをしている。

カタカタカタ……カタン。

ディスプレイに“準備完了”とでた。

「没入、スタートします」

歯車が猛ダッシュを始めた。

カタカタカタカタカタカタカタカタ……カタッ。

ディスプレイに長方形の空間が浮かび上がり、その右の方に2つの黒い英文字、“M”と“G”。

「やつはまだか……」

「もうすぐ2時です。リーダー、アクセス開始します。」

「おう、やってくれ」

新尾崎が、目にも止まらぬスピードで象牙のキィを叩く。

カタン。

空間の中央に、ただ黒い点。

「これがリーダーです。Mはマディ氏、Gがジェドさん。ウエストが来たら、Wを表示します」

カチリ。

機関に付けられた時計の長針が、ぴったりXIIを指した。

カタカタカタ。

左に“W”が現れた。

「おでましたな」

「メッセージをどうぞ、リーダー」

「んーと、“てめえよく来れたな覚悟はできてんだろうなボケ”」

「……マジですかい？」

「バッカ、冗談だ。“俺が”レジスタンス同盟の首脳の一人、鬼崎だ。同じくラング伯、ダイバーで同盟員のドーダー。共に、貴殿の適切な判断に感謝、来訪を歓迎する”だ」

「了解」

カタカタカタン。

Wがアップになり、隅に文字が浮き出る。

“さて、話を始めようではないか、ミスター鬼崎。何を話そうかね”

「ジェドさん、移動します」

カタン。

Gが俺の横に転移し、そのアップの隅に、また文字が浮かぶ。

“人質のことだ。こちらは、4人の即時解放を希望する”

カタン。

「卿、貴殿のような紳士が、力無き民を盾におのれの身の安全をはかるなど、バカバカしいとは思わぬのか？それこそ、貴殿方イギリス人の“騎士道精神に反するのでは？”

「ウエストコースト、移動します」

カタン。

“確かにそうだ。私も、彼らの無意味な拘束に疑問を感じていたところだ。あの時……君達が私の家に押しかけてきた時は、私だけではなく彼らの身の安全をも図らねばならなかったのですね”

カタッ

“仕方なかったのだよ”

カタカタン。

“何だと！何が仕方なかっただ！あの時素直に捕まっていれば!!”

「チッ、あのバカ……南船、あいつを下がらせろ。新尾崎、“先程の暴言、心よりお詫び申し上げます。が、そちらもなるべく言葉は選んでもらいたい……よろしいかな？”」

「了解」

カタカタカタ。

“こちらもすまなかった。許してくれたまえ。本題に戻ろう。こちらとしては、ここ数日のうちに、あの4人を自由にする方針でいた。こちらの方もなかなか大変でね。……望むのなら、明日にでも彼らをエアーズロックの根元にでも降ろしてもいい。その代わり、こちらとしてもそれに相応するものをいただかないと”

「新尾崎、“聞こうか”」

「了解」

カタカタ。

“君達の持つ‘時空理論’とやらを、こちら側にも教授して欲しいのだ。どうだね？こちらに来た方々の抗議だけでは、どうも、ね”

カタン……G。

“それを使って、他の世界に侵攻する気じゃないだろうな”

カタッ

“それは、今のところ無い。それに、彼らの目的は征服ではない。‘布教’なのだよ、リーダー君。彼らのすばらしい宇宙の教えを、少しでも多くの人々に理解してもらおうのが、彼らの望みなのだ”

“じゃあ、来た時の破壊はどうなんだ。現に北京は無いし、大阪は消し炭、マディの奥さんも死んだ。どうなんだ、卿”

“私は、それは‘事故’と君達の勝手な判断による無意味なパニックのせいだ、と聞いている。現に君達は、こちらの話も聞こうともせず攻撃を開始したし、いくら高文明の民とはいえ、事故が起こらないとは限らないのだ”

“何だと……”

「新尾崎、“お前は少し黙ってろ。交渉が先だ、ジェド……” ったく、しゃーねー野郎だ」
「フーッ、こっちもいい加減疲れますよ」

カタカタッ。

“……すまん、リーダー。私は少し下がる”

「こう伝えろ。“その要求に応じよう。幸い、こちらにも専門家はいる。まず3日以内に人質全員を解放、そして停戦もしくは終戦後にこちらから人員を派遣する。どうだね？”」
「ウエストコースト、さらに接近します」

カタカタカタカタン。

“よかろう。では、明後日に彼らをエアーズロックに降ろす。それと停戦のことだが……”

「マディ伯、移動します」

カタカタカタ……M。

“簡単だ。お前らが降伏すればいい”

“マ、マディッ!?”

“ふむ……確かに簡単だ。しかし、君達がハデスを返しに来れば済む。そっちの方が簡単だ”

“力に屈した貴様が何を言う。革命……人類の尊厳より、技術導入による世界の救済、か。しかし、無気力、無抵抗、無力な人々をつくり出すことが果たして救済なのか？環境の変革による世界のバランスの崩壊が、貴様の望みか？そのバランスを固定しようとするのだろうか……服従の運命だと？冗談もいい加減にしたらどうだね、ウエスト”

「あんだと!?どうなってんだ、こいつら」

「ウエストコースト、さらに接近！」

カタン。

“さあ？貴殿の方こそ……抗するのは分かる。しかしだがね、民主主義的ナショナリズムだの、種族的プラキティズムだの、理想論だけで、‘力’だけで全てが解決すると思っっているのか、マディ？戦えば、アフリカの病は消えるのか？血を流せば、大英帝国の暴走を止められるのか？……私を殺せば、世界は救われるのかッ！貴様こそ……”

カタン。

“リーダー！こいつはちとヤバイぜ！止めさせようか？”

「どうします、リーダー」

「……チッ……新尾崎、“お二方、今の時は、主張を議論するためにはありません。交渉を”」

「了解、リーダー」

「それと……南船、攻撃キノ＝カードの用意だ」
「え!？」
「……いざとなったら、こいつで脅せ」
「了解、ただし使用は避けて下さい」
「分かっている」
カタカタカタカタ……
「申し訳ない、つい感情的になってしまった。数々の無礼、慎んでおわび申し上げます”
“ダミー君、私は邪魔のようだ。先に離脱（ジャック・アウト）させてもらって構わないか?”
「なるべく最後までいてくれ”」
カタン。
「了解した。無理を言ってすまなかった”
「ウエストコースト、後退します」
カタッ、カタン。
「すまないが、あの方々が私の不在に気づいたようだ。今、近辺のマトリックスに搜索プログラムを走らせている。ここも見つかってしまう恐れがある、君達も早く離脱した方が身のためだ。ミスター鬼崎、このことについては、また話し合うことにしようではないか。今度は私の方からアクセスしよう。それと、人質は私の母の名に誓って、必ず明後日にそちらに降ろそう。約束する”
“じゃあ、私はこのへんでおさらばするか”
「ジェドさん、離脱します……離脱しました。“水平線（フラットライン）”は0215～16、脳細胞に異常はありません」
カタン。
“ウエスト……また会おう”
カタカタ。
“マディ、……人の運命とは、全く奇なものだな。お互い心を変えぬのなら……それもよかろう。さらばだ、我が親友”
「何イッ!？」
「ウエストコースト、転移します……完了。0236。0220に“水平線”があったと思われます」
「鬼崎さん、こちらの機関のICEも、穿孔機能搭載のプログラムを確認しました。危険です！早くアクセス終了の命令を！」
「……新尾崎」
「はい、リーダー」
「マディに離脱命令。それとその前に、“後で話を聞かせてもらおうか、ウエストの親友”
「……はい、鬼崎リーダー」
カタカタカタカタカタッ。
“分かった、ダミー君。皆を連れて、明日のこの時間、私の部屋へ来たまえ。アイリッシュ＝ウイスキーでも用意させよう”
「マディ氏、離脱します……離脱しました。“水平線”は0219～20、随意運動中枢に微度の負担がか買っています。0238」

「プログラム、さらに接近！鬼崎さん、早く命令を！このままではこっちのバックアップも持ちません、かなり強力で強引な能力です。バスターニュの“壁”の崩壊も、時間の問題です！」

「リーダー!!」

「……」

カタン。

「早く!!」

カタカタカタカタカタカタカタカタカタ……

長方形を形成していたキノ小片が、けたたましく震え始めた。まるで、肉食獣に狙われた兎のように。

獣か……

「リーダー!!」

長方形が崩れだした。

「アクセス終了。大至急離脱だ」

「待ってました！アクセス、終了します！」

カタン。

キノ小片達が、黒く沈黙する。

「フーッ、危なかった……」

「リーダー！どういうつもりですッ！機関の歯車が全て弾け飛ぶところだったんですよ！結局、明日は修理と整備で1日使ってしまうなあ……」

フィラメントが焼ける音。

「ああ、ホントにボケッとしててすまんかった。次はバッチシやつかんよ……ん、活動終了。片付けは俺がやるから、2人共休んでくれ」

「了解、お休みなさい、リーダー」

「おう、死ぬまで寝てろ」

部屋に、沈黙の幽霊が忍び込んで来る。

俺は1人、椅子に座り、目をつむる。

しばらくそのまま、流れることのない空気に枕する。

椅子を動かし、キーボードを少しいじる。

カタン。

ディスプレイが再び息を吹き返し、キノ小片が英単語を白い虚空に描く。

friend

destiny

sadness

「……クソが……やっかいなモンに振り回されやがってよ……やれやれ……」

俺はメインスイッチを切った。

静寂と暗闇が、俺を襲う。

そいつらを斬り殺しながら、俺は部屋に帰った。そして、脳に影を落としながら眠った。

Ⅲ

「鬼崎さん……行かないんですか？」

「……」

「言い出しっぺのあなたが……」

「……うっせーなー、たまにや休ませてくれよ」

「でも、それって無責任じゃ……」

「うっせーったらうっせーんだよ！おめーらは交替で寝てるだろーけどな、俺は今までロクに寝てねーんだよ！明日はエアーズロック行かにやなんねえし……それによ、」

「それに？」

「奴とウエストの関係なんざ、とっくに見当ついてんよ。ま、せいぜい……大学ン時のダチで、社会に出たあと国家論か何かで対立して……それでマディが外交官になって、奴らが来て、見てみりゃウエストの野郎が新内閣の重役か……んじゃなけりゃ、首相クラスにでもなったってな感じかな。ま、ありがちなシチュエーションよ、日崎……なんだったら、俺のウイスキーを賭けてもいいぜ」

「とにかく、あなたは行かないんですね」

「何度言わせんだこのスットコドッコイ……俺はねみーんだよ……んな、分かり切ってるコトにいちいち付き合っつてられつかってんだ。……日崎、おめーは行くんだろ」

「はい、新尾崎さんも大田原さんも清里さんも、それにチーフも……エリスも行くそうです」

「ま、とにかく話聞いて、確かめて来いや。それとな、奴に伝えとけ」

「はい？」

「……“全くやっかいな奴を敵に回したモンだな、ま、おめーが振っ切れるか最後までこだわるか、特に俺はとがめやしない。けどな、これだけは覚えとけ。最後の最後まで信じなきゃなんねえのは‘自分’だ……てめえのやるコトなすコトに唾吐くのは、男として最低だぜ……そろそろ覚悟を決めな、おめーには‘仲間’つつー最高の味方がついてんだからよ、自分を信じろ”ってな。俺は寝るぞ！明日の10時に起こしてな」

「……はい、鬼崎さん、お休みなさい」

「……………」

「なんだ、もう寝ちまったのか。よっぽど疲れてたのかな……ま、いいや。早いところこ」

「……ケッ、ガキが……人の気も知らねえでよ……」

Epilogue

「……の諸君!!時は来た。我々は今虚偽と絶望からこの星を脱出させるべく活動中だ。しかし、諸君らの後押しがなければこの地球は船出しない。船はもやいが解かれただけなのだ!!……」

傍らの簡易スピーカーから、デコードされた南船の演説が聞こえてくる。その隣では、てめえの信念なのか、この地では死をもたらす黒コートに身を包んだ秋、Tシャツ姿のエリスタン、油まみれの大田原、脇に工具を吊った水着姿のフェイク＝ナーシムが、放送に耳を傾けつつ、安堵のため息をつきながら上を見上げている。

スリムなインディブルーのボディ、決して出っばってない大きな主砲、見丸目は小さい

が内部構成はしっかりしているという管制室、力強いロケットエンジン……人質解放の日、つまり一週間前に改造が完了した、飛行戦艦ハデス改め、宇宙戦艦ポセイドン……このネーミングにヤマトが暗示されてるのかどーかは知らん……だ。砂漠の地下に掘られた洞に格納され、今は超速機関の設置テストが行なわれている。改造に直接携わったエリスタンと大田原は、正に感無量といった感じで今にも涙が眼からあふれそうだ。……セクシーダイナミックなカッコのフェイクにまわりつかれ、眼のやり場に困っている秋はおいといて、俺もこの“海神の分身”に目を向ける。

地上の超速機関を通して全世界に流している、南船と新尾崎、元人質の久木野のアジテーションは、今のところ大した効果は見られない。が、彼らは、久木のらに託されたウエストのメッセージを聞いた時、今度は“銀の船”襲撃の生中継をやる、と言いだした。何が何でも、“家畜”と化した人々の鎖を解き放つつもりらしい。それはそれでいい。しかし……結局、奴とは“最後の戦い”にて決着をつけることになってしまった。ま、予想はしていたが……奴等の吹き込んだコトだろうか。そんなことは今は関係ない。てめえはてめえの運命に、抗しながらも流されるのみ……運命、か。俺は……逃げ場のない黒い海で、どんな運命をたどるのだろう。マディは、ウエストは、仲間は、Xeusは……フン、運命なんざクソくらえ。

「アーッハッハッハッハッハッハッハッ」

大田原が、俺の狂気の笑いに恐怖する。

「お、おい……大丈夫か!？」

「ハッ、ちげーよ……あまりにも時が俺の思う通り動くんで、バカバカしくて笑えてきたのさ……」

「そんなもんか」

「そんなもんだ」

すでに、BOX総会で宇宙進軍の話は大体まとまっている。

「Xeus攘夷派全ての戦士は、6月15日の夜明けと共にポセイドンで地球離脱、ただちに攻撃開始……攻撃内容については、二週間以内に開催される総会で決定される。なお、この作戦をもってXeus開国派、異星人の勢力を殲滅、The Brave of Xeusは、その活動を事実上停止、解散するものとする」

ボトルを傾け、ふと想う。

俺は最後まで人間でいれるのか、と。

夢の成就是時間の問題。

DESTINY.

BGM: Xclamation # 1 (by X) ~ Endless Nameless (by NIRVANA) ~ How Many Miles To Babylon (by Yngwie=Malmsteen)

To be continued

筆者より

もう紙がないので余計なコトは次に回します。クソツタレ語の件、了解しました。一応意識しておさえてみましたがいかがでしょうか。その他不満な点があったら、すぐに言って下さいね。では。

6月9日深夜

大暴露！ 空技廠スタッフ紹介《その1》

今回は、空技廠本部のスタッフの紹介を行ないます。これらは原則として本人以外が独断と偏見によって書いたものであり、故意に内輪ウケを狙って書かれたものもあるため、データについては割り引いて考えた方がよい性質のものもあります。また似顔絵は孝行始氏が描きましたが、これも氏の第一印象などによる誇張が多分に含まれるため、必ずしも実物と一致としてはいないことを、ここにおことわりします。



(その1) by 宇垣麻美
菊地 研一郎 (会長)
昭和48年3月祝日生まれ
牡羊座。男。ORh+。
横浜市港北区在住。駒大法律学科2年。
同大図書館の夜間アルバイト
PN：本居こじ(所により大和呑龍)
会内呼称：提督(宇垣、笠原、孝行)
親父(岬・ヤグアル) 社長(ヤグアル)
会外呼称：じじい(高校) 親父(同左)
キクケン(小学校) ケンケン(幼稚園)
チ〇チ〇(幼稚園～小学校)

持病：胃弱、胃酸過多、近眼、多汗症、肋間神経痛、弱い難聴

好物：渋茶、煎餅、赤ワイン、シーチキンライスのマヨネーズあえ、マーマレード、小田原みかん、台湾バナナ、庄内米、福井米、近現代戦史、技術史、艦船、輸送機、中古車、鉄道、ラリー、ビートルズ、リンドバーグ、春風亭柳昇、柳家小さん、スイングジャズ、チャーシューメン、トンコツラーメン、鱈のたたき、鱈の照り焼き、猫、犬

嫌いな物：酔のもの、日本酒、輸入オレンジ、パイナップル、戦国時代、計算、桂竹丸、最近の「ロック」とやら、おたく、陸軍、バイク、F1とその同類、アパー女、巨乳新車、吉岡平、パン、Hゲーム

希望する職業：日本郵船 横浜市交通局 海上保安庁 母校の司書教諭 自衛隊

備考：カラオケではシラフなうちから軍歌を歌う。外見はふけていて、実年齢+10歳程度に見られること多し。バイト先で院生に間違われた。天皇ファン。うちで一番趣味が広く、かつ浅い。従って貧乏。考え方がコチコチに凝り固まっていて、慣れないと疲れる。「本当」の笑顔を見た者は少ない。渉外、広報、その他空技の実務をほとんど掌握している、一番エラくて忙しい人。

空技のイベントでは必ず会える。



(その2) by 岬当麻

三浦 英理 (企画部長)

昭和48年1月平日生まれ

山羊座。女。(一応) BRh+。

横浜市神奈川区在住。駒大政治学科2年。

某書店のアルバイト(92.7.1現在)

PN: 宇垣麻美

会内呼称: 麻美(菊地、岬、笠原)

北の方(岬) 姐さん(岬)

会外呼称: ミウ

持病: 特になし

好物: 大型機、バイク、客船、親父、山
山菜、鯉、鯨、はまち、コーヒー、清酒
黒ビール、東急、ベンチャーズ
ジェリー・ルイス、ベニー・グッドマン
阪神、大洋

嫌いな物: ハエ、走り屋、ガス欠、雪、アメ公、悪質なジョーク、読売とそのファン
西武。

希望する職業: 海上保安庁 書店員 灰

備考: 横浜のスタッフ中唯一の運転免許保持者。アツギスト。剣道は無段だが初段級らしい。常連は知っている通り、提督と結構いい仲だったりする。98(…だったかな)が家にある。先日ついに「SHANGRI LA」を買ったことからわかるように、結構Hゲームに手を出している。バイク(カワサキZII RS)のローンもあるのに、ずいぶん裕福な生活を送っている。

人のことを言っておきながら、実は自分でも軍歌を歌う。「月月火水木金金」から「戦友」まで何でもござれ、しかもタテ続けである。

最近空技内でコンパイラ化している。一昔前までは乙島恵利と音無響子を足して2で割ったような性格だったのに……。

一応、空技内のナンバー・2である。



(その3) by 宇垣麻美
 岩元 隆文 (真鶴PBM責任者)
 昭和47年8月平日生まれ
 獅子座。男。BRh+。
 横浜市港北区在住。駒大法律学科2年。
 某模型店アルバイト(92.7.1現在)
 PN: 岬 当麻
 会内呼称: 岬
 会外呼称: イワゲン

持病: アニソン過敏症

好物: 同人誌、アニメ、N響、ウルトラクイズ、おつまみサラミ、コスプレ

嫌いな物: 停電、PTA、警察、犬

希望する職業: 小学館 VAP 角川書店
 自衛隊 母校の国語教員

備考: 「おたく」彼を一言で言い表すところなる。コミケには中学の頃から手を出しているし、セル画に莫大な金額を注ぎ込むし、世間一般のおたくにはまだ届かないが、ウチではとにかく一番。あるいは好事家と言った方が早いかも知れない。



(その4) by 宇垣麻美
 笠原 和子 (ワープロ打ち)
 昭和47年4月平日生まれ
 牡牛座。女。ABRh+。
 横浜市神奈川区在住。駒大仏教学科2年。
 某企業アルバイト(92.7.1現在)
 PN: なし
 会内呼称: なし
 会外呼称: 不明

持病: 軽いヒステリー

好物: チョコパフェ、Hゲーム、アニメ、竹刀、オレンジ、しゃぶしゃぶ、焼き魚

嫌いな物: 右翼、左翼、ヤンキー、サイコロ
 =ハッピーイスト

希望する職業: 文化人類学者 横浜そごう
 喫茶店店主

備考: 私たちにも未だに謎の多い人物。麻宮騎亜のファンらしい。剣道初段。正宗征士の彼女。



(その5) by 岬当麻

正宗 征士 (上方支部長)

昭和47年10月平日生まれ

蟹座。男。ARh+。

神戸市中央区在住。阪大国文学科2年。

某和菓子屋アルバイト(92.7.1現在)

PN:長船 吉光

会内呼称:正宗、セーちゃん

会外呼称:正宗、マサ

持病:なし

好物:米、上方落後、清酒、竹刀、みかん

嫌いな物:洋酒、毛唐

希望する職業:剣道師範 国文学者 作家
自衛隊

備考:剣道野郎。ひよんな事で飛行機好きであることが発覚、我々の一族となる。私と同じく提督とは幼稚園以来の付き合い。年中からである。それから小中高とずっと同じだったから、恐るべき腐縁と言える。いつだったか、NHKで人形劇三国志をやっていた頃、近くの県立公園で「桃園の誓い」ごっこをやった記憶がある。

「大阪の笑い」を追及しに上方へ行ってしまった、とことんまで変な奴である。旧帝大だから、すごく頭がいいのかも知れない。

「剣道一本娘」だった笠原をまずアニメに導き、次いでゲーマーへと洗脳して空技スタッフに組み込んでしまった。同じ道場だったらしいが詳細は不明。ソフィスト永平寺の台頭で陰が薄くなっていたが、彼がお山へ登ったため復権の兆しがある。

元町の某和菓子屋または某鉄道科学館、梅小路などで会うことができる……かも知れない。ある意味空技最大の財産である。

三 等 雑 居 室

疑問。

☆封筒のBとかIって何ですか。

(三重県・勝本充司)

么：BはBlowers、IはIsabeliaの略。こちらで印刷冊数を確認するためのものです。

苦情。

☆最近Blowersはつまらんぞ

(神奈川県・蔵田昌弘)

么：……おまけに遅いときたもんだ。加えて、追い討ちをかけるように本部が総スランプ状態に陥ってるし。Blowers刊行で飽和状態になった空技廠の活動が、駒大推理研の会誌発行(年3回)を任せられて一気にパンク寸前まで行ったこともあるし、……マイナス要因が多すぎますね。作業のサイクルが確立するまで、どうかご容赦を……。

真鶴。

☆ところで、「真鶴」の戦場マップか何かないんでしょうか。そのほうが雰囲気もわかりやすいし、いろいろ作戦とかも考えやすいと思うので。

(宮崎県・井山大介)

么：原作者自身が真鶴の実地に行ったことがないし、それにそんな細かい設定はありません。せいぜい、「男子部と女子部の校舎の間に運動場。それぞれ反対側に寮。海岸線沿いが全て模型部のエリア。運動場の国道側(山側)に大きな学食がある」という程度のもんです。

ストII'。

☆最近ストII'にはまっています。とりあえず、ブランカ、本田、ザンギエフ、バイソン、バルログ、ザガット、ベガでクリアしました。全キャラの無敗クリアを目指し燃えております。対戦では、今、バイソンにどっぷりつかっています。ターンパンチのファイナルを当ててやるとがんばっているのですが、難しいです。ダッシュ系は連続で出せる様になってきましたし、3段も撃てるようになりました。とにかく、修業あるのみです。

(秋田県・菅原忠幸)

么：前にも書きましたが、私は「ストリートファイター」シリーズは「できない」ので「嫌い」です。なんたって、あの「必殺技」なるものを出そうと悪戦苦闘している間に、敵の技の方がゲシゲシ決まるしね。こないだも友人のにつきあわされて、ボロボロにされました。……特に理由もなく本田を取ったんだけどね。やっぱりゲーセンは、インベダーやパックマン、それにラリーXの頃が黄金期だったなあ。でも菅原さんて、ブランカユーザーじゃなかったの？

PC。

☆実は、予備機のパソコンにPC-98(RorDシリーズ)を買おうと思っていたのですが止めました。はっきり言ってあの機械は最悪です。ジョイパッド、スティックが使えないし、何よりも音源が酷い。MSXミュージックだってあれ以上の音が出せるというのに、98は本当にFM音源積んでるのでしょうか？ どうも僕には最高PSG3音にしか聞こえないのですが……。 (半分以上皮肉) まあ、ビジネス機とホビー機を比較したり、ビジネス機に遊びを求めるのは大間違いだと思いますが、やっぱりゆるせません。

おそらく、68に慣れてしまったせいかも知れませんね、こう思うようになったのは……。やはり次のパソコンはTOWNSあたりにするべきでしょうか？ (でもTOWN IIは嫌い)

(千葉県・小西清彦)

么：友人から88FRを1万5千で譲ってもらって狂喜乱舞している私なんか、足元にも

及ばない次元の話ですナ。……まあ、NEC機はビジネス市場が主目的なんだから、小西さんみたいな視点で評価するのはちと酷というものでしょう。ゲームにもいろいろ種類があるし。おそらくFRPG系やシューティング系のゲームを言っているのでしょうか、そんなのならそれこそゲーム機でやったほうがいいです、絶対。それ用の造りをしてるから。「グロスドイチュラント」（やったことないけど）や「戦略空軍」（同左）みたいな戦略級シミュレーションの一人プレイならパソコンがベスト。そういう見方でいいんでない？
富士通機については言及を避けましょう。ね、蔵田さん？（苦笑）

MD。

3月に出たシャイニングフォースは仲間の中でも評判がヨイです。8月にはDQVが出るようですが、これに対抗して「ランドストーカー」というARPGを秋に出すとか。6月11日に発表で、12日に朝日新聞の経済面に載ってました。それもさることながら、その次の週の週刊少年ジャンプにその記事があったのは驚きでした。エニックスの肩を持つてると思ってたですから。しばらくは安心できそうです。

（中略）メガドラにもハードを代表するようなソフトが出てきたのは嬉しい限りです。心配どころはサードパーティーですね。がんばってほしいものです。

（兵庫県・菊地研一郎）

ㄥ：MDのソフトは、88導入を機に「スーパー大戦略」「アドバンス大戦略」を残して全部売っ払ってしまいました。ショックだったのは、「A列車」（¥3500）を除いて全て500円にしかならなかったこと。「MDのソフトは値移りが激しい」という話は真実なんですね。……「エアマネージメント」のMD版とか、……出ないかな、やっば。

原稿。

はっきり言ってすごい描きづらい課題でした。描き始めたら一気に描いちゃいましたがみてのとーり、ヒドイもんだ（^ㄆ）バックは海ってことでしたがまっしろにしちゃいました。……しかし女装の日向小次郎（編註：宇垣麻美のこと）って一体……小次郎に見えないしー。
（北海道・渡辺里奈）

ㄥ：……お疲れ様でした。有難うございます。……でも座禅の手の形が違うぞー。（←座禅にはうるさい）「カルラ舞う！」に法界上印って出てないかなあ。……出てないか、あれどっちかって言うと陰明道だし。「臨兵闘者界陣列齊前」でしたっけ？ビデオの奈良編と仙台編④～⑤レンタルで見ただけだけど。

次は大阪圏の方に告知。

空技廠4周年記念

お茶会 in 大阪 のお知らせ

見ての通り、大阪でお茶会（昼食会&物見遊山）します。概要は次の通り。

日時 8月1日（土） 午前10時から正午
場所 国鉄大阪環状線 弁天町駅下 「交通科学館」
必要経費 交通科学館入館料・昼食代（3千円あれば充分）
その他 8時半に「のぞみ」で大阪入りするので、余裕のある人はそれから一時間ばかり、時間潰しの市内観光でも。
あと、昼から堺へ行く用事があるので、必ず午前中のみでお開きになります。
スタッフでは正宗征士、宇垣麻美がくるかもしれません。

☆真御関係にもこのコーナーは使えます。なにしろ「雑居室」ですからね。次は一般投稿では始めてに近い、全頁イラストだ！

The Five Star Stories ☆

ウオ——ッ コイは

最高におもしろいぞんがな ダニタ!!!

月本さん みんなでいっしょかな? みこりかあ
アッ、混ざってる...

2月日 数字のテストだら2113の12... も3がメタ...



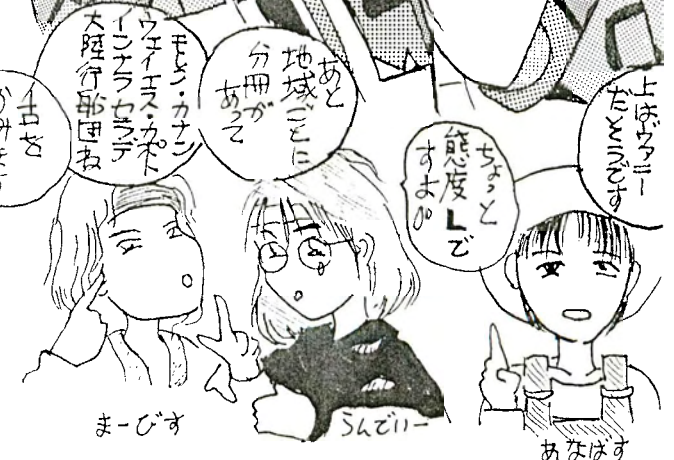
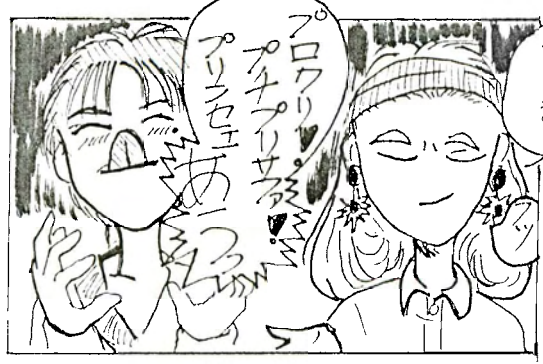
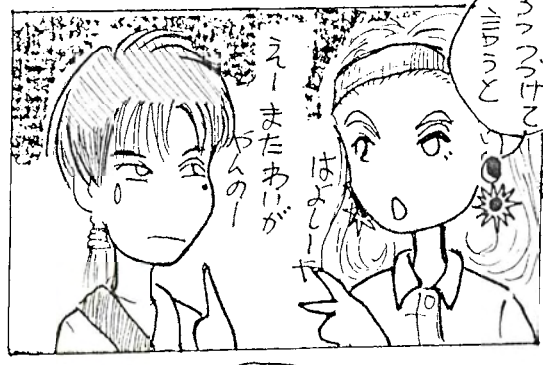
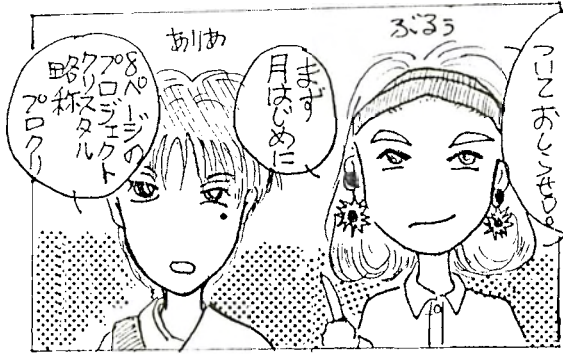
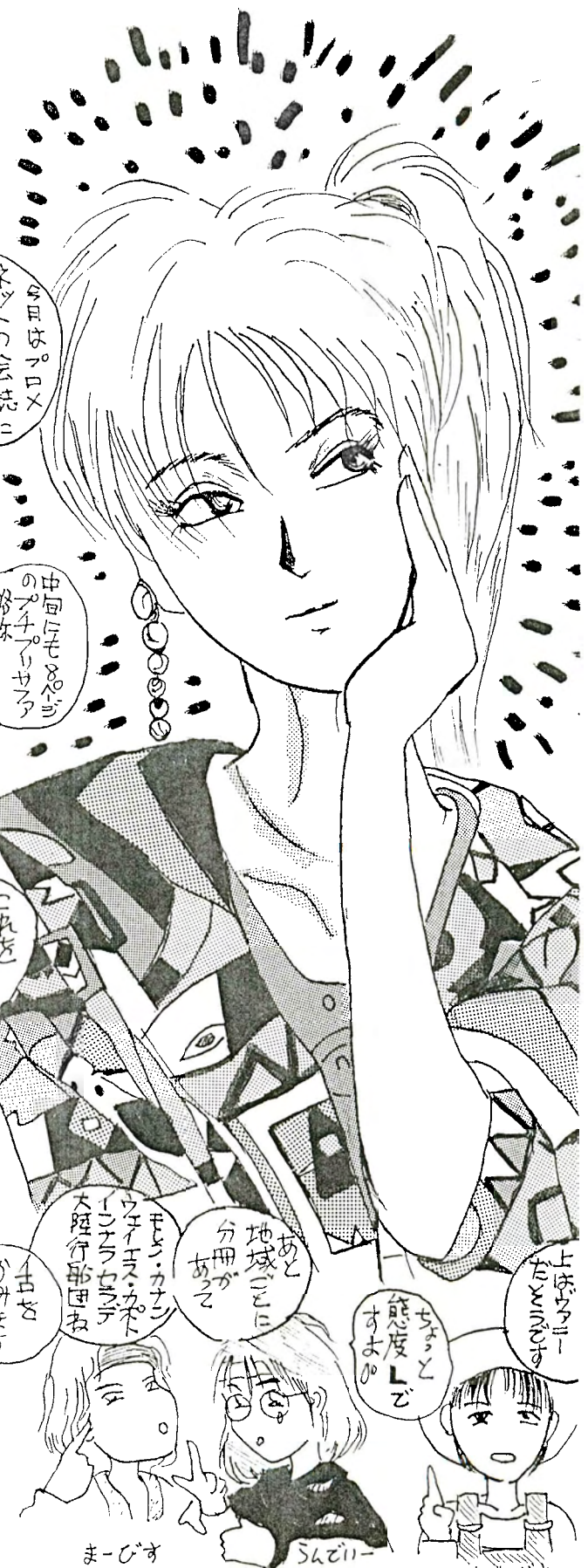
皆様、新参者ですが、うちの娘を →
どうかヨロシクお願いします。アッ

と32'プロメテア、2何ですか?



アッ

プロXティアより 愛をこめて by 〇



〇早口ことば

まーじす

5んていー

あなはす

新世代ハード

5/18、ハドソンが新チップ 32bit「Hu62シリーズ」の開発に成功したと発表。これは一部の高性能パソコンで可能とするデジタル動画の再生を安価に家庭用に提供することが目的で開発されたとのこと。周知の通りNEC製ゲームハードのPCエンジンはこのハドソンが設計しており、PCを解剖してみるとあちこちに「HUDSON」と書かれたのチップが取り付けられているのが分かるが、現行のPCのCPUは8bitだからこの「Hu62」が実用化されれば単純計算で処理速度が4倍になる計算である。（ちなみにスーパーファミもメガドラもとくにCPU16bit化していたのでPCだけがCPUパワーアップに遅れていた。）ハドソンはこのチップには相当の自信があるようで、1秒間に60コマのフルアニメーションが可能だとか、現行CD-ROMなら1時間の実写映像が収容可能などと豪語している。

一方NECはパイオニアとLD-ROMに関する技術提携をしたらしい。LD-ROMとは簡単に言えばCD-ROMを越える超大容量を誇る記憶媒体である。

もしこの両方の技術が投入されたハードが本当に発売されたらゲームソフトの公告が「超々々大作大河RPGついに到来！RPG以外にシューティング、アクション、シュミレーション、アドベンチャー、パズル等あらゆるジャンルのゲームを組み込んだ新機軸ゲームッ！キャラクター職業は2千種、登場人物総数五百万人、敵キャラ総数5万種、マップ総量1億画面、アイテム1万種、予想プレイ時間1万時間」と、でも公告されるのだろうか？だが問題はハードの価格である。どう考えても20万を下るシロモノではないような気がするが？

SONYの野望

2～3年程前のことだがあるところでSONYが新型CDの開発に成功したという記事を読んだ。当時これは、現行CDに対して記憶容量が6倍に相当するものであると書かれていたのを覚えている。これが本当なら大きさが同じなら、CD6枚分のデータが1枚に納まり、記憶容量が同じなら大きさが1/6になる可能性を秘めていると喜んだものだが、これが今年の11月には市場に出回ることになるらしい。

これはミニディスク（以下略MD。メガドラ

イブの略ではない）と呼ばれる光磁気ディスクで、外観は3.5インチのフロッピーディスクのようにプラスチックケースに収められているが、本体の大きさは直径6.4cm。

このMDの特長はなんといっても現行CDより小型であると同時に容量は現行と同じ74分を誇る上に記録が可能であることである。加えてテープやCDが弱かった振動にも強く、曲の頭出しなどが簡単に出来るという。

これは、CDの欠点であった記録できない、遅い、振動に弱い等の欠点をMDがかなり克服したことを意味する。また、現行CDの大容量低量産コスト、情報の保持性はそのまま持ち越されるのだからこれは無限の可能性を秘めているといっても過言ではない。

（ただし記録時の音質はCDと比べてやや劣るらしいが、十分に実用的。）発売されればかつてCDがレコードを駆逐した様にMDがテープ市場に取って代るかもしれない。

——と考えると喜んでいたらとんでもないことを聞いた。MDとは直接関係がないが、SONYが任天堂と共同開発中であるスーパーファミ用のCD-ROMの開発を中止しようとしているらしい。

CD-ROMの開発発表時に任天堂がフィリップスと契約するか、SONYと契約するかで両天秤にかけたことに対してSONY上層部が激怒したらしい。CD-ROM一体型のスーパーファミを待って今までスーパーファミ本体を買わなかったんだから仲直りしてくれ～っ任天堂！頼むよ～SONY～！

燃える！

2～3年程前のことだが私はある対戦格闘アーケードゲームに燃えていた。ゲームの名は「ストリートファイター」である。今巷に吹き荒れるこのゲームの後継「ストリートファイターII」の人気の地盤を築いたゲームである。旧作は新作と違ってプレイヤーは基本的にリユウだけしか使えなかった上に必殺技の「波動拳」「竜巻旋風脚」「昇竜拳」のいずれもが秘密のコマンドとされていたため、なかなか練習するのに苦労してゲーセン通いをやめられなかったのを覚えている。だが通い続けた甲斐あって

最後の敵サガットと対戦できるまでになった。

(しかし1度として倒せなかった。)

そして去年アーケードに登場した新作ストIIには店に導入される前から目を付けていた訳であるがいろいろと予定が出来てしまい、ゲーセン代も削って貯金をせねばなくなってしまう。だから私自身は殆どストIIを目にすることなく過ごしてきたがたまにプレイしても2年のブランクは大きく、(私はリュウ以外ではプレイしたことがない)波動拳もまともに出せない有様である。海外ではそうでもないが、国内のゲーセンではたいてい人気ゲームをヘタなプレイヤーがプレイすると、周囲のギャラリーは「下手なくせにイキがつてんじゃねーよテメーなんか十年はえーぜ」という雰囲気がいやが上にも伝わってくる。こうなったら意地である。

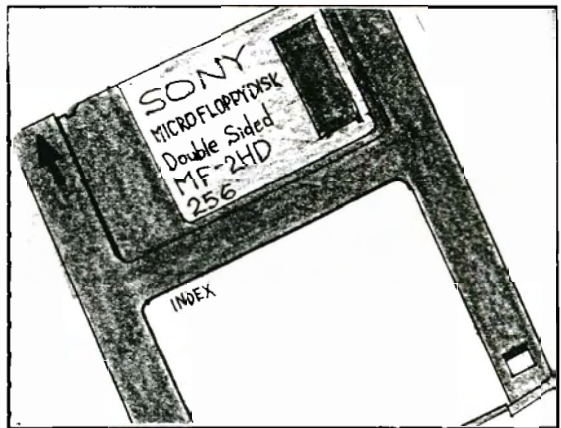
他の客がいない時間を狙って訓練するしかない。そこで開店直後に店に行ったがぐわ〜ん既に客がタカっている。見ると大体私と同年代のどこかうさん臭い人間ばかりである。全員目指すはストII。店にストIIは全部で10台置いてあるが、各テーブルの前には既に順番待ちの客もいる。昼日中、学校も行かずこんなところに入り浸るクワイ連中の正体って一体…(よく考えてみれば私もその1人である。)

レンタルゲーム

パソコンソフトや家庭用ゲーム機のソフトレンタルは業界がソフトのコピー助長につながるとして禁じているが、そのテのサカリ場に行けば結構あるものである。しかしパソコンや家庭用ハードのクオリティが高くなった今、無理してゲーセン通いしなくてもアーケードに迫る質のシューティングやアクションゲームが手に入ることを考えれば「ここまでやるか?」と通常人が言わざるを得ない「アーケードゲームのレンタル」なるものが存在する。

知っている人もいると思うが、アーケードゲームは家庭用ゲームやパソコンのようにソフトを入れ替えて中身を交換するようには出来ない。簡単に言えばアーケードゲームはディスプレイ(TV)、ジョイスティック、基盤(コンピューター本体)、テーブルで構成されている。レンタルはこの本体の基盤をまるごと貸し出すというものである。

読者は「それじゃチップむきだしのあの部品のままで貸し出すのか?」と思うかもしれないが、その通りである。考えてみればかなり乱暴



な話に見えるが、いわゆるマニアの間ではアーケード基盤を買い取ってゲームを楽しむことはかなり前からあったらしい。しかし1枚1枚がかなり値を張るのが原因でこのようなレンタルが登場したようだ。(ちなみにある中古基盤屋の料金表を見ると、R-TYPE ¥15,000、グラディウスII ¥48,000、ゼクセクス ¥65,000、エリア88 ¥95,000、ストII' ¥258,000と書かれている。)

私の知っている店では入会金千円、保証金が1~5万円でその保証金の2倍の金額の基盤までがレンタル可能となっている。レンタル料は8日間千円からだという。

この店のレンタル料が高いのか安いのか私にはちょっと判断がつかない。

NECをブッ飛ばせ

日本のパーソナルコンピューター市場はかつてNECが市場全体の6割を占有していたが、(確か)87年にエプソンがNECのPC-98の互換機を市場に投入した結果、両社競いあってマシンのパワーをアップし、価格を低下させ、ユーザーには嬉しい革命が起きた。だが、パソコンの本場米国に比べて価格も性能も見劣りを認めざるを得なかった。そこへ目を付けてきたのが世界最大のコンピューターメーカーと言われるIBMである。

IBMは去年、OADGと呼ばれる推進協議会を発足させ、NECに対抗して日本のパソコン市場の開拓を企てているのである。

で、OADGだが、これは具体的に言えば日本IBMがDOS/Vの発表を期に東芝、松下、ソニー、三菱、三洋、日立、キャノン等の

大手ハードメーカー（パソコンにおいてNECに翻弄され続け、巻返しを画策していたメーカー）と、IBMとが同盟を結ぶというもの。IBMはハードの内容を公開する代わりに同盟会社はハードを製造して販売し、国内にIBM機を普及させようという狙いである。

さて、そのIBMのパソコンだがこれは世界標準機とも言えるパソコンであるが、ユーザーは外国製のパソコンで日本語処理は大丈夫なのかということが一番気にもむが、こんなことは既にDOS/Vで解決済みである。問題は国産機を上回る魅力がなければ売れない、という事実だが、これは問題外。何がすごいといえ、とにかくすごいのである。（説明になってない）

ではIBM-PCのその魅力とは？①うまい②早い③安い——と、書ける。（これではまるで吉野屋の牛丼だな）

①うまい とあるパソコン雑誌によると、『ポルノ解禁の海の向こうのアダルトソフトなんかグラフィックは実写取込の胸がボボーンのお尻がババーンの腰なんかキュキュキュのそりやもう鼻血プブブーなんだぜい』と、よく分からないことが書いてあるが、ウィザードリィやウルティマやフライトシュミレーター等とにかく国産ゲームとは訳が違う質の高いゲームが揃っているのは確か。ハードディスクが絶対必要なほどメモリーを喰うゲームばかりなのである。海外の最新ソフトは今までは国産機に移植されるのを待つしかなかったユーザーも国産IBM-PC互換機で遊べるのだ。英語が恐いというなら日本語版を待てばよい。DOS/Vがあるから今までのように移植が遅れることも少なくなるだろう。

②早い 驚くべきことにIBM-PCの全シェアのなんと50%以上はサードパーティーつまりIBM以外の会社が製造しているのである。そのため、実に多くの機種が市場に出回っている。すると必然的に各社が激しい競争を始めるわけである。したがって、黙っていてもマシンが高性能、低価格化する。エプソンがこの春発売したPC-98互換の新型機「PC-486GR」はCPUにi486SXを使用、25MHzの処理速度を有するが、国産パソコンの処理速度は大体16~20MHzが主流である。

一方で海外のIBM-PCの主力処理速度は33MHzであるという。これだけ速ければアーケードゲームも楽に移植できるのではなからうか？

③安い IBM-PCのゲームはバカみたいにメモリーを喰うゲームが殆どであるため、ハードディスク（以下HD）がなければ話にならない。また

逆に言えば安価で大容量のHDが大量に出回るからこのようなソフトが発売されるのである。ただしIBM-PCはHDのみが安いのではない。全てが安いのである。CRT、HD、キーボード、ビデオボード、増設メモリー、本体全部買っても60万で十分すぎる性能のものが手に入る。とりあえず始めようかという人なら、国産機だったら本体しか買えないようなお金でIBM-PCなら一揃いする。安いから性能が低いかといえ、前述の通りそんなことはない。一石三鳥にも四鳥にもなり得るマシンである。（ちなみに前述の「PC-486GR」は25MHzで¥458,000～、NEC純正の25MHz処理可能モデルは¥895,000～、IBM-PC互換機だと33MHz、HD付きで¥398,000である。

結論：あくまで私自身の個人的な予想であるが、IBM-PCはNECの98をこのままだと国内から駆逐してしまうのではないかとと思われる。まだ現在は制作発表の段階であるからソフトも全然揃っていないので何とも言えないのであるが、今まさにNECがパソコンで生き残るかどうかを決定する分岐点に達していると思われる。NECがここでドーンと新型機に気合いを入れて…もらいたかったのだが、発表された新型機（PC-98FS、FX）も大したことはなく良くも悪くもNECのパソコンを引きずっている。やっぱりこりやだめ…なのであろうか？

番外

外国製のパソコンというとマッキントッシュを思い浮かべるのは私だけであろうか？マックはデザイナーやイラストレーター、CGアニメーション等いわゆる「デザインのプロ達」が愛用するパソコンであるという。私自身はそれ以上のことを知らないがこのマックのソフトにヤバいものが出回っているらしい。それはポルノ解禁の海外からの輸入CD-ROMにあるらしい。私が雑誌で読んだ記事によるとCDの中身は実写取込の無修正写真集であるらしい。またこのCDと写真修正用のソフトを組合せることも出来るらしい。（プロユースだから拡大、縮小、輪郭鮮明化etc.が思いのまま可能）記事にもその画面写真の一部が出ていたが、ハッキリ言って「大丈夫なのか？」である。

王虎戦史中止のお知らせ

✦Blowers第8号巻末でファンタジーPBM「王虎戦史」の開始を予告し、ルールブックの発売予告をし、読者の方々には既に十数名の方がルールブック代をお送りくださっていました。この度誠に申し訳ないことですが、中止という事態に陥ってしまいました。ゲーム処理者である田中真人が浪人中であり、受験対策に追われる毎日であるため、このままPBMを開始してしまうと、ゲーム処理に時間がなかなか割けなくなる上にBlowersの発行遅滞にもつながることが予想されるため、中止を決定いたしました。読者の皆さん、本当に申し訳ありません。ですが、ルールは出来上がっているため、時間さえあればすぐにでもゲームを開始できる状態にありますので、来年、田中真人の進路が決定いたしましたら改めてゲーム開始の報を掲載しようと考えております。（正確には、中止というより**延期**というほうが適切かも知れません。）なお、送っていただいたルールブック代は、混乱を避けるため、返送いたします。来年、ゲーム開始が決定されましたら、改めてルールブックを請求してください。なお、ルールブック代が返送されてこない場合は、誠にお手数をおかけしますが、編集長菊地研一郎までお問い合わせ下さい。



王虎戦史ルールブック表紙

アンケート集計結果中間報告

✦8号に挟んで読者の方々にご協力をお願いした「Blowers読者アンケート」の集計結果を今号で発表すると予告しましたが、何通かが菊地研一郎編集長の手元にあるため、集計結果が出せず、正式な発表は次号にもつれ込んでしまいました。申し訳ありません。そこで今回は中間報告として手元にある分だけをもとに結果を報告いたします。なお、プレゼントの米海軍航空隊のワッペンのは発送は次号と同時とさせていただきます。

Question：従来号と比較して今回の BLOWERSの総合評価をお書きください。

Answer：「編集者の心遣いが感じられますね。いいんじゃないっすか？」「イラストが少ない気がした。スタッフを英語で書くのはカッコイイけど読みにくい」「特に文句はない。このままで十分。以前のものよりクオリティが高い」「ホチキスの止め方は絶対こっち（背打ち）にして欲しい」「私にとってこれで2冊目なので何とも言えない」「大変きれいに仕上がっており、コーナーも充実してきてる。次号もこれらを維持してほしい。」「記事的な問題は一切ない。ただ今号は、レイアウトを改良した点で従来号よりも読みやすかった。今号に従来号の良いところがプラスされればなおいいのだが」

✦8号の編集に関してはおおむね良好という結果が得られてまして、田中真人、大いに喜んでおります。裏表紙のマンガに関する反響が思ったより大きく、菊地研一郎編集長自身も笑ってました。

～ 一 等 喫 煙 室 ～

菊地：ああもう、今月は死にそうだよ。胃炎が再発するわ、推理研の会誌（註1）は出さなきゃならんわ、システムディスクはブツ飛ぶわ……

岬：それだよ、なんで飛んだんだよ。

菊：……自動レイアウト印刷（註2）が起動しなくなったんだよ。で、マスターディスクにユーザ辞書とユーザ文字（註3）を写して、いっぺん初期化したんだよ、いつものディスクを。

岬：それでコピーし直したんなら普通にいくだろうが。

菊：それが行かなかったから、ここまで遅れたんじゃないか。多分ディスクそのものに機械的なミスができたんだろ。A-Strike（註4）の初回から使ってたもんなあ。

笠原：それにしたって、新しいディスクにやり直せばいいんじゃない？

菊：やったよ。でも、肝心のユーザ辞書と文字が入ってなかったんだよ。困ったよ、㊦なんか、一応復旧したけど一日作業だぜ。それでまだ今までとはちょっと感じが違うもんなあ。

宇垣：お疲れ様。

菊：まだあるぞ。ユーザ辞書に入ってた旧海軍の艦名とか、全部ペアだ。当分かかるな、こっちは。あれ字を捨てる結構ややこしいんだからな。

岬：まあそう開き直るなよ。結局はお前の確認ミスなんだから。普通印刷はできたんだろ？

菊：……う。

岬：じゃそれでやりやよかったんじゃないの？

菊：う。

笠：あーこりゃー重罪だー。

菊：ええい！いいじゃないか、一応7月うちには出たんだから。これで8月のコミケまでに10号を出すのも、不可能じゃなくなった。

宇：理論的にはね。

岬：そう。物事すべて理論的に行けば、こんなにもいいことはないやーねー、なあ親父。

菊：あー、はいはい。もう予定日より一週間ぐらいの遅れは普通になっちゃったしねー。

笠：そーだねー。

岬：そう言えば、大阪行きの切符は取れたのか？「のぞみ」と「銀河」。

菊：あー取れた取れた。も、余裕。バッチリ。完璧よ。

岬：そりゃよかった。姐さんの方は取れたんですかい？

宇：まだ買いに行っていないって。日程の調整もつくかどうかわかんないしー。もしかするとSG研の合宿の方に行くかも知れない。

菊：あ、そうか。ぶつかってるもんな。

註1：本来なら5月中に出ているはずだったが、原稿がなかなか揃わなかった。

註2：ワープロの機能。行数が半端な時、行間を調節して、一ページ一杯に埋まるようにしてくれる。

註3：♫や♡など、

註4：空技創設のきっかけとなった空戦PBM。今年春から「SONIC DIVER」に引き継がれた。

後記

菊：今回から、駒大アニ研のゆきま「師匠」の漫画を裏表紙に使っていく予定。お楽しみに。

宇：前回のクレジットには重大な誤りがありました。驚いた？

岬：夏コミに出るぞ！「北総新選組」に注目！

長：……申し訳ない。

紺：焼肉屋で「牛タン食うか？」を「榴弾食うか？」と聞き間違えた。嗚呼……

ヤ：PBM「王虎戦士」延期。読者の皆さん、申し訳ありません。来年までお待ちを……

Staff

編集長：菊地研一郎／編集補佐：宇垣麻美

筆者：本居こじ 岬当麻 田中ヤグアル真人

紺野紫楼／絵：ゆきま ただのりな（脱稿順）

Blowers 第9号

第3巻第5号（通巻9号）

平成4年7月15日発行 代価300円

（送料別）

編集人 菊地研一郎

発行人 菊地研一郎

発行所・印刷所 「空技廠」



※本誌記事の一部または全ての無断使用を禁じます。

今月の表紙

「暑中の涼」

絵：ただのりな

次号は8月中旬発行予定です。

……即ち、夏コミね。

（間に合うのか？）

なお、原稿メ切は8/10（厳守）です。

